

厚生労働省老健局振興課
介護支援専門員

石山麗子さん



昨年4月に入省して介護支援専門員についた。ケアマネジャーの実務者になるのは初めて。ケアマネ研修に福祉用具も組み入れられた。「介護現場の経験と研究を踏まえて、どのようなしくみであるのがよいかを考えていくのが課題です」

ナチュラルハートフルケア
ネットワーク代表理事(理学療法士)

下元佳子さん



理学療法士として17年間病院勤務後、訪問看護と訪問介護、重度の医療ニーズのある子どもの通所介護の事業を運営。併行して高知ふくし機器展や地域の専門職の人材育成に取り組んできた。「地域で開催するファーストステップのワンコイン研修も開催。今春一般社団化しました」

福祉用具サービスは、選定力やモニタリング力が大切

介護の質を上げて自立支援や介護負担軽減を図るキーワードは、福祉用具である。本座談会「道具を使った介護」では、下元佳子さん(理学療法士)、ヤマシタコーポレーションの山下

多職種をつなぐ用具の役割

石山 本日は「道具をつかう介護」というテーマで、どのように用具を活用して在宅介護をすすめていくのがよいか、率直にお話いただければと思います。

山下 在宅での生活で常に横にあって支えられる福祉用具は、人材不足の今日、ますます有用性を増してきました。

水越 福祉用具サービスは、元気な高齢者から末期の方まで、何らかの用具を活用して生活を支援できるのがよい点だと思います。提供する側からすると、それだけ相手の心身状況や環境に合わせた対応が必要になるので、そのためのスキルアップや人間力の向上が求められる仕事ですね。

進行性の疾患で10年間、セラピストさんとも在宅での支援をさせて頂きました。ケアマネジャーも参加するのですが、状態の変化に合わせて、車いすのシーティングの調整など1カ月1回行っていました。このセラピストさんは、「一緒に考えよう」というスタンス

で、身体機能の評価と車いすの調整を分担しました。

下元 専門性の違いを分かっていることが大切です。PTやOTなどリハビリ職が担うのは、この人を見て、予後予測をして、この人にとって環境が要るのかを示すことです。そこを伝えれば、福祉用具専門相談員に具体的な選定を行ってもらえる。リハビリ職には自分で答えを出さなければいけないというあたり、「指示出し」をする傾向がありますが、専門職とうしが力を合わせて答えを出すのがいいですね。

石山 アセスメントが大事ですね。最適な福祉用具を選ぶために、たとえばスーパーへ行くことが短期目標になっている場合に、福祉用具専門相談員として、家からスーパーまでの道路の様子を見つめたアセスメントもあると思うのです。

水越 デイサービスの送迎に合った車いすを選ぶために実際の送迎時の状況を見に行ったり、デイの職員さんがテイルトリクラインの車いすの扱

下元 レンタル制度のことになりませんが、リハ職の役割は身体機能面における予後予測です。予後予測をして用具選定を進め、絞り込んでいってもこれが絶対的という言い切れない場合があります。レンタル制度であることで、見直しができるのはありがたいですね。1カ月ごとでやっていきます。1カ月ごとと云えます。

ご本人やご家族の間では、できるだけ自分でやろうとして、用具にも頼りたくない。でも用

用具が支える退院支援

水越 大柄の夫が退院することになり、在宅での移乗や移動を妻が担うのがたいへんと予測された時に、入院中からリフトを病院に持ち込んで使ってみたこともありませう。

山下 当社は退院前支援に力を入れていて、入院中から1定期間、退院後に在宅でつかう用具の貸出を行っています。その人に最適な用具を入院中から使っていくと、1カ月あれば、だいたい使い慣れてきて、家での利用がスムーズになります。

石山 調査データによると、退院前カンファレンスの出席状況で最も多いのが福祉用具貸与事業所で、34.6%の出席です。ちなみに訪問看護は13.0%です。

下元 訪問看護が低いのは少し意外な気もします。重度で医療的なケアが必要な場合などは参加されるのですが、それを除けば、時間で動いている訪問看護は対応が難しいのかも知れませんね。在宅でのサービス担当者会議でも書面での参加が多いですからね。

上手な用具導入のやり方

下元 高知県の福祉用具展示場は展示する福祉用具の無料貸し出しをやっています。間に合わないときやお試しに、当事務所でリフトやシャワーキャリーなどを借りて対処しています。

石山 リフトなどはカタログだけではイメージが湧きにくいだけで、イメージが湧きにくい

ので、展示場を使い方を教えてもらうのもいいですね。

下元 たた用具の操作を伝えるときに、在宅では最初から難しく言わないのもポイントですね。物の説明は限られた人に言って、つかう人には安全面はしっかり伝えるけれど、分りやすく簡単に「これをどうすればよいか」と話す。「それだけいいの」と反応してもらえば、よい説明になります。

水越 まず使ってもらうことが大事ですからね。そこから理解が広がっていく。利用指導が相手の求める以上に細かすぎると、壁をつくってしまうのもありません。

下元 それと、退院支援に関わりませんが、病院にいる間に福祉用具を知ってもらうのがベストですね。

山下 病院で使っていた古くて重い歩行器がよいと思いついていた利用者さんが、在宅で使いやすい歩行器をいくつすすめても使ってもらえなかったのが、退院前支援が必要だと考えたいきっかけです。

下元 病院で馴染んだ用具を切り替えるのは相当時間がかかりました。しかし私も病院にいましたので、病院ですべての用具を取りそのまゝはまず不可能です。特に回復期に、在宅で使われる用具を家で試し、調整までして出してもらえれば、在宅移行はスムーズです。

石山 退院前はご本人やご家族にとって一番心配な時期で、入院中から用具を使って動

はなくて、実は福祉のイメージを変えたいのだからリフト導入なのですね。「きつい、重い、たいへん」といった福祉のイメージを払拭したいと、福祉業界に入ってきた石山は、「抱え上げない、持ち上げない、をスタンダード」という「フリーディングケア宣言」をしました。地域福祉政策課の人材部門の事業です。

2005年までに高知県では介護人材900人を増やす必要があるのですが、人がいないからリフトで、と言っているので

は十分に余っていました。リフトの導入以前は、訪問介護など人的なサービスがたかさん使われていました。

山下 福祉用具が活用された理想的な状況ですね。

石山 用具の良さには、使った日から一定のクオリティが確保できる点もあります。

水越 リフトの活用の良いところは、介護負担の軽減もあります。引っぱり上げられる際の褥瘡や拘縮のリスク回避なども、なにより本人のメリットが大きいですね。

上がる財政効果

山下 一昨年財務省が要介護2までの生活援助と福祉用具貸与を原則自己負担化すべきという提起をした時に、日本福祉用具供給協会が福祉用具貸与の有用性を推定する調査を行いました。

概算で、要介護2までのレンタルの費用額は全国で年間130億円だったのが、調査結果では、もし福祉用具を使わなければ、その代替手段として500億円の利用が必要と推定され、逆に財政負担が1370億円増えることになりました。10万人のヘルパーさんの追加人材確保や家族の介護負担増が試算されて出ました。

この調査結果や全国の在宅ケアマネの半数以上にあたる5万人強の署名等をきっかけに財務省からの提案は見直されることになりました。皆様のご協力には深く感謝しています。

下元 海外でも、用具を活用している国に行くと、利用者さんの表情がよいのに気づきます。

山下 状態がよくなり、姿勢も改善すると、筋力がついて食欲も出てくることも増えるのです。福祉用具を使って生活が改善した人は元気になっていくというのが、またエビデンスはありますが、そうしたご利用者さんが多いように感じています。(次頁に続く)

福祉用具で介護を変えよう！座談会

9・10月号掲載

「道具をつかう介護」

きこい、たいへんとイメージの払拭を

福祉イメージを変える

下元 高知県はずいぶん高齢化率35%。周辺では40%超の町村がたかさんある。そこで4年前に、県は「抱え上げない、持ち上げない、をスタンダード」という「フリーディングケア宣言」をしました。地域福祉政策課の人材部門の事業です。

2005年までに高知県では介護人材900人を増やす必要があるのですが、人がいないからリフトで、と言っているので

ヤマシタコーポレーション社長
山下和洋さん



社長になって5年目を迎えた。父の影響で小学生の夏休みの自由研究に福祉用具を選んだ。「入社して、レンタル業務の実務2年半の経験から学んだことが多く、日々の経営に活かされている。社会保障改革の動向を注視しています」

ヤマシタコーポレーション
人材開発課長
水越良行さん



昨年まで現場にいて、世田谷営業所長を務めてきた。「人材開発課は今年立ち上った。人の育成・研修体系の強化を通じて地域に貢献する会社にしたい。席は本部でも、依然、気持ちは現場にいます」

山下 すべ取組ですね。

下元 そこで何が起ってきているかという、新卒の人がそうした施設病院を選ぶのです。道具を使って楽というだけではなく、実習に行く先輩介

県内に波及する「フリーフト」

下元 「フリーフト」っておかしくない、たいへんだ、という